

教科 (科目の種類)	学科 (コース) 名	学年	単位数	履修期間
家庭	全科	2	2	通年
		科目名	家庭総合	

目標	生活の営みに関わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人と協働し、より良い社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成を目指す。			
概要	家族の機能と家族関係、家庭の法律、保育、高齢者の生活、消費生活などについて学習することにより、生活課題を主体的に解決するとともに、家族の一員として、また将来家庭を営む者として自立し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践力を身につける。			
授業計画	<p>1]自分らしい人生をつくる (4月～6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した自己の生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。 <p>ホームプロジェクト・・・(夏休みの課題)</p> <p>2]子どもと共に育つ (7. 10. 11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供を生み育てることの意義について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を学ぶ ・保育の重要性や子供の健やかな発達を支えるために親や家族及び地域や社会の果たす重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を養う。 	<p>3]ホームプロジェクトの発表 (9月)</p> <p>夏休みの課題として取り組んだホームプロジェクトを発表し、友人の発表を聞くことで、家庭生活に関する視野を広げ、家族の一員としての自分、将来家庭を営む一員としての自分について考え、自分の生活をより充実させようという姿勢を養う。</p> <p>4]共に生き、共に支える (10月)</p> <p>高齢社会の進展及び高齢者の心身の特徴や生活を理解するとともに高齢者福祉のあり方や、高齢者との関わりについて考える。</p> <p>5]経済生活を営む (12. 1. 2. 3月)</p> <p>消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解し、生活情報の情報収集・整理が適切にできる。消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援などについて理解をして、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解を深める。</p>		
評価の観点	評価の観点	内 容		評価方法
	知識・技能	人間の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身につけている。		毎時間のワークシート提出 レポート作成 定期考査
	思考・判断・表現	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。		毎時間のワークシート提出 休業中の課題 (ホームプロジェクト) 発表内容・レポート
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践的しようとしている。		休業中の課題 (ホームプロジェクト) 実習・課題・授業の取り組む態度
教 材	教科書：東京書籍「家庭総合」			
履修上の注意	授業で学習したことを理解し、実践する能力を身につけるには日々の生活で学習したことを家庭生活で活かしていくことが大切である。さらに、意識して生活の中での課題や問題点を発見し、それを主体的に解決していかうとする姿勢も重要である。また、そのことは卒業後、様々な分野の職業労働にもいかされていくため、生活体験を豊富にしてほしい。			

教科 (科目の種類)	学科 (コース) 名	学年	単位数	履修期間
家庭	全科	3	2	通年
		科目名	家庭総合	

目標	人の一生と家族・家庭、及び福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を習得し、男女が協力して、主体的に地域や家庭生活を創造する能力と実践的な態度を養うことを目標とする。			
概要	衣生活、住生活、食生活、消費生活について学習することにより、家族の一員として、また将来家庭を営む者として自立し、生活課題を主体的に解決するとともに家庭生活の充実、向上を図る能力と実践力を身につける。			
授業計画	<p>①消費生活と資源・環境（4月、5月）</p> <p>現代の消費生活の特徴を知り廃棄と資源の再利用について考え、クレジットやサラ金などの社会問題について考える。賢い消費者として知識や理解を深める。</p> <p>②衣生活を作る（6月、7月）</p> <p>被服実習・・・エプロン</p> <p>③食べる（9月～11月）</p> <p>現代の食生活の特徴や問題点を理解し、自己の食生活に関心が持てるようにする。食品の栄養的特徴を理解し、食と健康との関わりについて学ぶ。</p> <p>調理実習を通し、調理の基本的な技術や知識を習得できるようにする。</p> <p>調理実習・・・4回</p>	<p>④住まう（12月）</p> <p>沖縄の伝統的住まいの特徴を学び、気候や風土に合った住環境について考える。</p> <p>一人暮らしのアパート探しシミュレーションを行い、住まいにかかる費用について学ぶ。</p> <p>⑤自分の人生をデザインする（1月）</p> <p>2カ年間の家庭科の学習のまとめとして、自立した人間として、将来の家庭を営む者としての将来設計ができる。</p> <p>作品制作・・・コラージュ（テーマ：夢）</p>		
評価の観点	評価の観点	内 容		評価方法
	関心・意欲・態度	家庭生活及び家庭科に関心を持ち、充実・向上をめざして主体的に取り組む態度がある。積極的に授業に臨む態度がある。		以上の4観点を下記方法により、総合的に評価する。 学習態度、定期考査、提出物等 ※仮評価は1学期期末テスト終了後に行う。 評価方法は上記の通りである。
	思考・判断	学習内容と家庭生活の現状を結びつけて、問題点を発見し、改善に向けて適切な判断をする		
	技能・表現	生活者として自立するための基礎的、基本的技術を身につける。各課題を「調査、まとめ、発表」など工夫をこらして計画的に取り組むことができる。		
知識・理解	衣食住の生活の科学と文化に関する知識を身につけている。生活課題を主体的に充実向上させる意義について理解している。			
教 材	教科書：東京書籍「家庭総合」			
履修上の注意	授業で学習したことを理解し、日常的に家庭での家事体験を積極的に行うことが大切である。さらに、意識して生活課題や問題点を発見し、それを主体的に解決していこうとする姿勢が重要で、実践することにより、知識、技術は確かなものになっていく。また、そのことは卒業後、様々な分野の職業労働にもいかされていくため、生活体験を豊富にしてほしい。			